



日本遠隔医療学会雑誌 第5巻 第2号
平成21年10月

Japanese Journal of Telemedicine and Telecare
Vol.5 (2), 2009

JTTA 2009 in KUMAMOTO

日本遠隔医療学会

Japanese Telemedicine and Telecare Association

目次

JTTA 2009 in KUMAMOTO 日本遠隔医療学会学術大会

| | |
|--|----|
| ・ 大会会場アクセス図と会場案内図 | 68 |
| ・ 大会スケジュール | 70 |
| ・ 大会プログラム | 72 |
| ・ 演題プログラム | 75 |
| ・ 学会長挨拶 (原 量宏) | 78 |
| ・ 大会長挨拶 (田代 祐基) | 79 |
| ○ 学会長企画 | |
| ・ 遠隔医療のモデル事業の現状 (原 量宏) | 80 |
| ○ 大会長企画国際セッション | |
| ・ 遠隔医療通訳の現状と未来 (田代 祐基・酒巻 哲夫) | 81 |
| 1) 米国の医療通訳の現状 (Ms. Izabel S. Arocha・Mr. Oscar Arocha) | 81 |
| 2) 群馬で始まった医療通訳とコールセンター (太田 祥一) | 82 |
| 3) 模擬診療:「突然外国人の患者がみえました」(田代 祐基) | 82 |
| 4) 医療通訳の育成:財団法人日本国際協力センター (JICE) (小磯 和俊) | 82 |
| ○ 特別企画 ① | |
| ・ 少子高齢化社会を支援する遠隔医療 (宇宿 功市郎・荒木 栄一) | 83 |
| 1) 小児救急現場と遠隔健康相談 ―地域密着型の小児救急電話相談事業を中心にして― (後藤 善隆) | 83 |
| 2) 熊本県における糖尿病地域連携パス ―熊本県糖尿病対策推進会議の取り組み― (古川 昇) | 84 |
| 3) 脳卒中連携情報ネットワーク ―県民に優しい脳卒中連携情報ネットワークを考える― (金澤 知徳) | 85 |
| 4) 大腿骨近位部骨折の地域連携パス (廣瀬 隼) | 85 |
| 5) 認知症周辺疾患と地域連携 (犬飼 邦明) | 86 |
| 6) がん患者在宅療養と地域連携クリティカルパス (佐々木 治一郎) | 87 |
| ○ 特別企画 ② | |
| ・ 遠隔医療のガイドライン (村瀬 澄夫) | 88 |
| ○ 特別講演 | |
| ・ 遠隔医療を支援する実世界ハプティクス技術 (大西 公平) | 89 |
| ○ 企画 ① | |
| ・ 画像遠隔医療 | |
| 1) これからの遠隔画像診断を考える (松尾 義朋) | 90 |

| | |
|--|-----|
| 2) ハイ・クオリティ、ハイ・セキュリティ遠隔画像診断への取り組み (河上 聡) | 91 |
| 3) NPO と大学関連病院で構成する遠隔画像診断 (藤井 正彦) | 91 |
| 4) 企業の医療参入としての遠隔画像診断 (大山 洋一) | 92 |
| 5) 新ネットワーク医療連携 遠隔画像診断 -熊本モデルのチャレンジャー (中山 善晴) | 93 |
| ○ 企画 ② | |
| ・ 循環器領域における遠隔医療 -植込み型デバイス (ペースメーカー、埋込み型除細動器など) の進歩とその遠隔管理システム- (本田 俊弘) | 94 |
| ○ 企画 ③ | |
| ・ ORCA プロジェクトの現況と将来展望 (上野 智明) | 95 |
| ○ 特別セッション | |
| ・ 基調講演: モバイルコミュニケーションと医療 (遠藤 明) | 96 |
| 1) 携帯電話の医療分野への応用の可能性 (木暮 祐一) | 97 |
| 2) 高等教育における e-ラーニングと医学教育における取り組み (本間 里見) | 97 |
| 3) 機能のソフトウェア化に伴う品質強化の提言 (門田 浩) | 98 |
| 4) ケータイトレンドと医療分野におけるモバイルソリューション (佐藤 一夫) | 100 |
| ○ 市民公開講座 ① | |
| ・ 地域医療崩壊への対応..... | 101 |
| 対談: 森枝 敏郎 (熊本県健康福祉部部長) 北野 邦俊 (熊本県医師会会長) | |
| コーディネーター: 渡辺 俊介 (日本経済新聞論説委員) | |
| ○ 市民公開講座 ② | |
| ・ 新型インフルエンザの恐怖とその対策 | |
| 1) 新型インフルエンザを経験して -今後に備える- (岳中 耐夫) | 104 |
| 2) 熊本県における新型インフルエンザ対策 (木脇 弘二) | 104 |
| 3) 新型インフルエンザの恐怖とその対策 (岡 徹也) | 105 |
| ○ 緊急企画 | |
| ・ 地域医療再生への道..... | 106 |
| ◇ JTTA 2009 in KUMAMOTO 日本遠隔医療学会学術大会【協賛企業一覧】 | 107 |
| ◇ JTTA 2010 in KUMAMOTO 日本遠隔医療学会学術大会【協賛医療機関一覧】 | 107 |
| ◇ JTTA 2009 in KUMAMOTO 実行委員会 | 108 |

演 題

| | |
|---|-----|
| ○ 分科会 ① 在宅医療支援分科会 | |
| ・ 新見地区医療介護への TV 電話利用の試み (その5) 地域 ICT 利活用モデル事業「新見あんしんねっと」事業報告 (太田 隆正) | 110 |
| ・ 「新見あんしんねっと」モデル事業における実証実験の評価 (金山 時恵) | 112 |

| | |
|---|-----|
| ・リハビリテーション情報提供における遠隔システムの有用性 －多機能テレビ電話の活用事例から－ (小林 まり子) | 114 |
| ○分科会 ② 厚生労働省科学研究費補助金研究報告 | |
| ・テレケアの実施状況及び評価に関する研究 －2008年度厚生労働省科学研究費補助金研究報告－ (長谷川 高志) | 116 |
| ・非山間部等におけるTV電話機能付携帯電話機を用いた遠隔医療に関する研究 (岡田 宏基) | 120 |
| ・携帯電話を利用したecological momentary assessmentは疾病をどの程度改善できるか? (森田 浩之) | 124 |
| ・栄養と胃ろうの地域連携のIT化にむけて (郡 隆之) | 126 |
| ・テレナーシングを受ける在宅慢性呼吸不全者のアウトカム評価研究 (中間報告) －在宅療養者の問診データによる看護トリアージとテレメンタリングの実践評価－ (亀井 智子) | 128 |
| ・慢性疾患診療支援システム開発に関する研究 (柏木 賢治) | 131 |
| ・テレケアシステムの構成要素に関する研究 －医学的観察対象による生体センサと情報基盤の選択－ (本間 聡起) | 133 |
| ・e-health事業者の現状 ー遠隔での保健指導を効果的に実施するためには?－ (星 亜紀子) | 137 |
| ・遠隔診療、新見地区TV電話を用いた在宅診療の有効性研究 (太田 隆正) | 141 |
| ○分科会 ③ 救急医療分科会 | |
| ・急性心筋梗塞と脳卒中に対する急性期診療体制の構築に関する研究 －循環器救急医療体制におけるモバイル・テレメディシンの現状－ (横山 広行) | 143 |
| ・モバイルテレメディシンの課題 ー移動体からの携帯電話回線速度の地域格差－ (大林 俊彦) | 145 |
| ・独立成分分析による心音聴取の支援 ー搬送中に下壁梗塞や乳頭筋不全を疑う－ (中島 功) | 147 |
| ・救急現場からの映像伝送の有用性と実用性の検証 (貞森 拓磨) | 149 |
| ・Usefulness of Mobile Telemedicine System in Real-Time Transmission of Out-of-Hospital 12-Lead ECGs and Live-Images of Patients on Moving Ambulances (Takeshi Takahashi) | 151 |
| ○分科会 ④ 過疎地・離島医療ネットワーク分科会／モバイル国際遠隔医療分科会 | |
| ・北海道における遠隔医療モデルプロジェクトの実施報告 (吉田 晃敏) | 155 |
| ・眼科遠隔医療における有効性の検証 (守屋 潔) | 157 |
| ・一般外来患者を対象とした遠隔医療に関する意識調査結果の報告 (三上 大季) | 160 |
| ・腹膜透析におけるD2P遠隔医療の有効性の考察 (守屋 潔) | 162 |
| ・眼科遠隔医療支援における有効画像解像度の評価 (林 弘樹) | 164 |
| ○一般演題 ① 遠隔医療とICT | |
| ・地域医療支援基盤としての病理画像のデジタル化 ーその現状と課題－ (東福寺 幾夫) | 168 |
| ・医療分野におけるテレワーク実証実験 －医師自宅における病院内電子カルテシステムの利用－ (坂田 信裕) | 170 |
| ・地域医療連携のための患者ID運用の考察 －IHE XDSプロファイル実装と周産期医療への適用を想定して－ (木村 映善) | 172 |
| ・北海道内における多数医療機関ICTネットワーク基盤構築の取り組み (中村 宏治) | 176 |
| ・モバイル機器の文字入力速度の比較検討 －モバイル機器の違いによる短文の文字入力速度－ (丁井 雅美) | 178 |
| ・モバイル通信を用いた電子診療鞆の開発 (吉澤 誠) | 182 |

○ 一般演題 ② テレケアと e-health

- ・ Usefulness of Varying ST changes in transmitted 12-lead electrocardiogram from a moving ambulance with the Mobile Telemedicine System in a patient with acute myocardial infarction (Takeshi Takahashi) 184
- ・ 皮膚科診療支援広域ネットワークの構築 (滝沢 正臣) 186
- ・ 交流分析性格特性からみた IT 健康管理機器利用率の検討
－保健指導ツールの有効配布について－ (佐藤 由起子) 188
- ・ 遠隔保健指導の要件の整理と提言 (八幡 勝也) 190
- ・ センサネットワーク i-手帳を活用したヘルスマonitoringと
地域コミュニティ形成による生活習慣改善プログラムの開発研究 (本間 聡起) 192
- ・ インターネットを活用した禁煙支援コミュニティの形成と
禁煙支援プログラムの提供についての研究 (三浦 秀史) 196
- ・ ネット対応携帯心電計を用いて心疾患管理中に入院加療した症例の検討 (二宮 淳一) 200

○ 一般演題 ③ 遠隔医療に於ける画像の高度利用

- ・ 衛星利用在宅医療災害医療支援システムの画像端末の輝度特性
－ iPhone と iPodtouch は DICOM 画像端末として使えるか? － (近藤 博史) 204
- ・ ハイビジョンビデオカメラを用いた宇宙飛行士の健康管理支援技術
－ 国際宇宙ステーションにおける遠隔皮膚診断技術の実用化検証 － (大島 博) 207
- ・ 災害医療における動画映像配信の活用
－ 総合防災訓練でのロケーションポーターを用いた実証実験 － (久木田 一郎) 209
- ・ リアルタイム高画質超音波画像遠隔配信システム導入の提言 (鈴木 真) 211
- ・ 離島における映像コミュニケーションシステムの評価 (久木田 一郎) 213
- ・ 超音波リアルタイム遠隔診断システム Tele-US の研究開発 (清水 豊) 215

○ 一般演題 ④ 遠隔医療の社会的基盤の検討

- ・ 立体地図による通信プロファイル・救急搬送への効用
－ 横浜山下公園付近の立体地図の試作 － (十蔵寺 寛) 218
- ・ 生物に着想したネットワークトポロジー管理を生物間通信に
－ 渡り鳥の鳥鳥通信を目指して － (中島 功) 220
- ・ 途上国での遠隔医療導入は可能か － インドの医療情報システムを中心に － (勝間田 実三) 224
- ・ 電離層の状態変動を考慮したシミュレータによる近垂直放射空間波 (NVIS) の伝搬路解析
－ 被災地の遠隔医療支援のための非公衆回線を用いた通信を目指して － (北野 利彦) 226
- ・ 日本の遠隔医療は開発途上国に導入できるか － 開発途上国側の適応可能性の考察 － (三瓶 宏一) 228
- ・ 地域医療崩壊防止策としてのインフラ整備
－ デジタルデバインド解消による遠隔医療の推進 － (花田 英輔) 232

○ 一般演題 ⑤ 地域、在宅医療と遠隔医療

- ・ ウェブがん情報分類器 (CWCC) を用いたがん情報ランキング (中川 晋一) 234
- ・ 在宅健康管理システムの活性化
－ 質問とメッセージによるユーザと管理者の双方向利用 － (森田 浩之) 238
- ・ 遠隔言語聴覚療法システム構築と小児患者に対する利用事例の報告
－ Skype を使った訓練事例 － (細川 淳嗣) 241
- ・ 埼玉県東部の胎児遠隔診断システムの構築 － 最小限の設備投資で － (菱谷 隆) 245
- ・ パーチャルリアリティを利用した在宅 CRPS 治療システムの開発 (福森 聡) 248

| | |
|---|-----|
| ・ e-health はなぜ医療費を削減するか — 診療日数データを用いた要因分析 — (明松 祐司) | 252 |
| ・ 眼科遠隔診療ロボットの診断能力の検討 (柏木 賢治) | 256 |
| ○ JTTA からの報告 | |
| ・ 日本遠隔医療学会・平成 20 年度活動報告 | 260 |
| ・ 日本遠隔医療学会・平成 21 年度活動計画 | 261 |
| ・ 平成 20 年度日本遠隔医療学会一般会計収支決算書 | 262 |
| ・ 平成 21 年度日本遠隔医療学会一般会計予算 (案) | 263 |